

洛友会会報

京都大学工学部電気系教室内
洛友会
〒606-8501
京都市左京区吉田本町
075-753-5270
www.rakuyukai.org

世界の宇宙開発事情

平成24年度東京支部長 小澤 秀司 (昭46年卒)



私は昭和46年に卒業して当時の宇宙開発事業団(NASDA)に入り日本の宇宙開発に携わることになってから42年が経ちました。その間、放送・通信・気象などの実用衛星が開発され、米国からの技術導入が始まったロケットも純国産化がなされました。また日本人宇宙飛行士の養成、国際宇宙ステーション計画への参加など有人宇宙開発も進んできました。平成15年には当時の宇宙航空分野の3つの研究開発機関(ISAAS、NAL、NASDA)が統合され宇宙航空研究開発機構(

AXA)が誕生しました。平成20年には宇宙基本法が成立し、その後宇宙基本計画が作成され「研究開発」中心の宇宙開発から「自律性確保と利用の拡大」を目指した新しい宇宙開発へ方向転換がなされました。このように日本の宇宙開発が変革期にある中、世界の宇宙開発の状況を紹介することにより洛友会会員の皆様のご参考になれば幸いです。

米国

米国の宇宙開発というと米国防空宇宙局(NASA)を思い浮かべる方が多いと思います。年配の方にはアポロ宇宙船の着陸など懐かしい思い出があるかと思いますが、米国の宇宙開発は大きく2つに分かれて実施されています。国防省が進めている米国の安全保障

中心とした民生分野の宇宙開発です。NASAの年間予算はJAXA予算(約1800億円)の約10倍で、国防省の宇宙開発の内容はよく把握できていませんが予算はNASA以上であると言われていました。NASAは宇宙ステーション(ISS)、宇宙科学・探査や地球科学を中心とした宇宙開発を進めています。ロケットなどの宇宙輸送分野では、将来の有人宇宙探査に必要な大型ロケットの開発はNASAで行われていますがISSへの物資や宇宙飛行士の輸送については民間企業の支援を行っています。これによって安価なコストで打ち上げが出来る「ファルコン」と呼ばれる新しいロケットなどが実現しています。天体観測や太陽系の無人探査にも力を入れています。火星については「キュリオシティ」と呼ばれる無人の探査機による観測を行うなど将来の有人火星探査に向けた準備を行っています。また4月には小惑星の地球への衝突回避にもつながる小惑星捕獲ミッションの構想も発表されました。

欧州

欧州の宇宙開発は欧州宇宙機関(ESA)が進めている欧州全体としての宇宙開発と各国が個別に実施している宇宙開発がありま

す。また2004年以降は欧州連合(EU)とESAの間で協定が結ばれ両者による欧州宇宙政策に基づく計画が進んでいます。ガリレオ計画と呼ばれる欧州版GPS計画や地球環境監視や防災・安全保障に貢献するコペルニクス計画などが代表的なものです。

ESAの年間予算はEUからの割り当てや加盟国(20か国)からの拠出金から成り、その額はJAXAの約3倍程度です。アリアンロケット開発、宇宙科学、無人宇宙探査、ISS計画への参加などが主なプログラムです。フランス、ドイツ、イタリア、英国などが自国の宇宙開発を積極的に推進していますが大半の国は自国宇宙予算の半分以上をESAへ拠出しています。

ロシア

ソ連の崩壊によりかつての勢いはなくなった時期もありましたが最近ではロシア政府も宇宙開発に多額の予算を付けるようになってきました。

NASAのスペースシャトルの引退後はロシアのソユーズがISSへの有人飛行の唯一の手段になったり、ロシア版GPSであるグロナスが24機運用されていたり、極東地域に新しい「ボストークヌイ」ロケット打ち上げ基地の建設に着手するなどその存在感が

増してきていました。

しかし、2011年から2012年にかけてロケットの打ち上げに相次いで失敗しその原因が設備の老朽化や人材の流出、高齢化にあるとされました。そのためロシア政府は昨年12月に2013年(2020年)に約6兆円以上の予算を宇宙開発に投資する計画を決めました。この計画では宇宙産業界の管理体制を改善し、ロケット及び宇宙技術の品質・信頼性向上に努めながら安全保障分野も含めた宇宙開発を推進し経済発展に貢献していくとされています。

アジア諸国

アジアでは中国が宇宙開発においても目覚ましい発展をしていますが、中国は国家戦略として宇宙開発を重要視し有人宇宙飛行、月探査や「北斗」と呼ばれる中国版GPSの開発に力を入れています。独自の有人宇宙ステーションの開発を目指し世界で3番目の有人宇宙船保有国になりました。有人宇宙開発には1993年以降6000億円以上の資金を投じたと言われています。「長征」と呼ばれるロケット開発にも力を入れており商業打ち上げ市場での受注活動も活発に行っています。

インドの宇宙開発は年間予算約800億円の規模で行われていま

す。衛星開発は通信、インド版GPS、地球観測、宇宙科学などの分野が中心で2008年には月周回衛星の打ち上げにも成功しています。ロケット開発にも力を入れており日本のH-IIAとほぼ同じ打ち上げ能力を有するロケットを開発中です。

韓国は韓国航空宇宙研究所(KARI)を中心に年間予算約300億円の規模で「コムサット」と呼ばれる軍事、民生両用の地球観測衛星や、静止気象観測衛星などを開発しています。またロシアからの技術援助を受け「ナロ」と呼ばれるロケットの開発を行っています。2度の失敗があったのですが今年1月に打ち上げに成功しました。

タイ、インドネシア、マレーシアやベトナム等の宇宙新興国も小規模ながら衛星を保有し、通信や地球観測データの利用などが盛んに行われています。これらの国では自国での実用衛星開発を目指し外国との協力による技術蓄積を図ろうとしています。

その他(イスラエル、ブラジル)

イスラエルは1988年に自国のロケットで衛星の打ち上げに成功し世界で8番目の打ち上げ国になりました。その後軍事用の偵察衛星の打ち上げを行っていましたが、最近では商業用の地球観測衛星の開

発・利用を行っています。偵察衛星の開発を通じて得られた小型衛星や高度な観測センサー技術を海外に輸出しています。約80億円程度の予算が宇宙開発に投じられています。その大半が軍事用衛星の開発に割り当てられています。

ブラジルは他国の通信衛星会社や地球観測衛星を利用するなど1970年代から宇宙インフラを活用してきました。また80年以降は国立宇宙研究所(INPE)が中心となって小規模な宇宙科学や地球観測の衛星開発を行ってきましたが、今年1月に今後10年間に2800億円以上の資金を投入する国家宇宙活動計画が定められました。この計画では本格的な通信衛星やアマゾンの森林資源の保護に役立つ地球観測衛星の開発などを行うおとししています。2003年の事故以来、ロケット開発が中断されていましたが最近ではウクライナと共同で新しいロケットの開発が行われています。

おわりに

世界の宇宙開発について概略を述べましたが、新興国特にアジアの国々が宇宙開発に力を注いでいる点についてご理解頂けたと思います。日本の新しい宇宙基本計画では、アジア諸国との連携や国内宇宙産業の国際競争力の強化など

に取り組むこととされています。アジアの国々は時には協力のパートナーとして、時には日本の宇宙産業の新しい市場として重要な存在になっています。そのためこれらの国々のニーズや他国のアジア地域への進出状況などの把握に努めると共に、より競争力のある技術基盤を築く努力を官民一体となつて行っていくことが必要だと思っています。

教室だより

**2012年度研究室対抗
野球大会閉幕**

優勝した川上研究室



平成25年度 懇話会 開催のご案内

在校生(学生会員)と卒業生(正会員)の親睦をはかり、在校生に先輩からのメッセージを伝えて激励するために、洛友会と電気系教室との共催で懇話会を毎年開催しています。今年度は左記のように開催されますので、奮ってご参加下さるようご案内いたします。

記

日 時…平成25年10月25日(金) 14時30分～19時30分
場 所…吉田キャンパス電気総合館 大講義室
懇親会…生協吉田食堂(旧教養部)

プログラム(予定)...

- 14時30分 開会挨拶(電気電子工学科科長 小野寺秀俊教授)
 - 14時40分 「もう一つの選択―高等専門学校」
荒木光彦先生(京都大学名誉教授・昭41年卒)
 - 15時30分 「日本エレクトロニクスの復権に向けて―付加価値創造のスピードアップ」
種谷元隆氏(シャープ(株) 研究開発本部長・昭56年卒)
 - 16時20分 休憩
 - 16時30分 「再生可能エネルギーの活用に向けて―電力システムの視点から―」
七原 俊也氏(東北大学 客員教授/電力中央研究所 研究参事・昭52年卒)
 - 18時00分 懇親会(生協吉田食堂1F)
(会費…社会人3,000円、学生無料)
- 連絡先… 電気電子工学科事務室 長谷川 智子
電話…075-1753-15273
FAX…075-1753-15271
Eメール: konwakai@kueekyoto-u.ac.jp

25チーム(32研究室)が参加して昨年6月から行われてきた研究室対抗野球大会が5月10日をもって終了しました。5月30日に表彰式が行われ、優勝した川上研究室の代表者に洛友会より寄贈された

優勝カップが授与されました。なお、準優勝は高橋研究室、3位は山川研究室・佐野研究室・篠原研究室合同チームでした。

松山研究室 M2 田邨優人 記

本部だより

洛友会本部役員会報告

平成25年度役員会は、去る6月30日(日)正午より、長尾会長、新旧2名の副会長、9支部長(代理を含む)、本部役員の合計17名の出席を得て開催されました。役員会は、会長の開会挨拶の後、荒木幹事長の司会で議題の審議に入りました。まず支部活動の状況と将来に向けた展望が各支部から紹介されました。千人以上の会員を擁する東京支部や関西支部では、支部総会のほか、講演会や見学会、拡大クラス会、ゴルフ大会や趣味の会など多彩な活動が繰り広げられています。一方で会費納入率や若手会員の参加向上を目指して、若手会員のための異業種交流会や勉強会などを行っています。会員数が四百名から百名程度の中部支部、中国支部、九州支部、四国支部、北陸支部は、総会、講演会、旅行会、ゴルフ会などが行われています。若手会員の獲得といった共通の課題に対して、地域毎に異なる原因分析とアプローチがとられています。東北支部と北海道支部は会員数が二十名程度で、電力会社員と教員が主な会員です。総会出席メンバーは固定的で、高齢化に悩んでいます。地方に転勤した会員は

是非参加してください。

続いて、平成24年度事業報告と同決算、平成25年度事業計画と予算案、役員改選、会則の改正、工学部同窓会の工学系同窓会連絡会への改編が審議承認され、総会に提案されることになりました。また、本部事務局体制の変更、ホームページの改訂、WEB名簿システムなどが説明されました。すでに運用が始まっているWEB名簿システムを用いて、会員はPCによる名簿検索ができるようになりました。一方PCを利用しない会員等のために印刷名簿の発行も継続したいと役員会では考えています。3年後の名簿発行時期に備えて、今後2年間で名簿の有償化や会費の改訂を検討することになりました。今年度から本部事務局や支部幹事がWEB名簿を活用して、通信費を圧縮したり、対応可能な会員に会報のWEB閲覧をお願いし、印刷・郵送費用を圧縮したりする取り組みを検討・実施します。

推薦会員

(平成25年6月30日承認)
 ・門 信一郎 准教授
 エネルギー理工学研究所
 (九大 総合理工学、平9年博)

洛友会本部総会報告

平成25年度本部総会は6月30日(日)、学士会館において、東京支部総会に引き続いて開催されました。本部、支部会員66名の出席がありました。

長尾会長の開会挨拶の後、荒木幹事長の司会で、平成24年度の事業報告と決算、役員改選が承認されました。副会長の松田晃一氏と田村和豊氏が2年間の任期を終え退任され、小澤秀司氏と辻村順一氏に交代されます。続いて、平成25年度事業計画と予算、会則の改正、工学部同窓会の工学系同窓会連絡会への改編が審議・承認されました。その後事務局から、運用が開始されたWEB名簿やホームページの紹介、ならびに将来に向けた名簿冊子の発行や会費などに関する検討課題が説明されました。最後は小野寺幹事(電気電子工学科長)による電気系教室の現状紹介です。耐震補強工事後の電気総合館の様子や、洛友会が後援しているエレクトロニクスサマーキャンプに参加している学生会員の活き活きとした様子などが紹介されました。

会員寄稿

アジアに魅せられて

池田 茂雄

(平7年卒・九州支部)

初めて海外に行ったのは13年前の会社の慰安旅行の台湾。それから、アジアに魅せられて、これまで、9回の旅行で計7カ国を訪れました。そのなかで、特に印象に残っているのは、ラオス、タイ、カンボジアです。

ラオスには、勤務する会社の労働組合の活動で訪れました。訪問の目的は、慈善活動先の訪問と文化交流でした。ラオス人学生と一緒に村に泊ホームステイしたり、現地の小学校を訪問したりしました。

ホームステイした家は、2階建てのコンクリート造りでしたが、高床式の木造の建物もあり、その床下には鶏や豚が飼われています。水洗ではないトイレ、水を溜めただけのお風呂、ガスはなく薪木を焚いて食事の準備など決して豊かとはいえない生活環境でした。ただ、電気、水道は整備されており、発展途上であると感じました。ラオス人は仏教徒で、温厚な性格です。ホームステイ先の人にも非常に優しく、とてもお世話になりました。

ラオスの就学率は、小学校84%、中学校54%、高校34%と低いです。校舎、教員、教材が不足していること、現金収入が少なく学費が捻出できない人々がいること、ラオス語を話せない少数民族にとってラオス語での教育が困難なこと、学校を出ても農業以外に仕事がありません。学んだことが社会で活かさないことが理由です。皆、生まれた場所に関係なく教育を受けられ、社会で活躍できるチャンスが与えられる未来がやってきて欲しいと強く感じるとともに、自分たちがいかに恵まれているかを感じました。

タイには、これまで5回訪れています。最初に訪れたのは、勤務する会社で実施していた変電所建設コンサルタント業務を支援するため、1か月バンコクに出張したときです。海外で仕事をしたことがなかった私にとっては、とても印象深い体験でした。初めてみる海外の設備に戸惑いながら、シンブルながらそれなりに理に納得しており、設備形成の考え方が理解できてからは、コンサルタント業務をそれなりにお手伝いできました。不十分な英語力の私と、なままた英語のタイの技術者との技術的やりとりや会話はなかなか進まず大変でしたが、図面を見ながら何とかコミュニケーションをとり仕

事をこなししました。

バンコクは遅くまで商業施設が営業しており、とても華やかな街です。通りには、飲食店や洋服・雑貨の露天が立ち並び、雑多であるものの活気にあふれています。

滞在中は単身ホテル暮らしでしたが、見慣れぬヒンドゥー教の影響を受けた仏教施設に行ったり、露天が立ち並ぶマーケットで買い物をしたり、楽しい私生活を送れました。タイ人も仏教徒で温厚な性格です。関係先の人也非常に優しく、とてもお世話になり、充実した1か月を送りました。その後4回バンコクを中心にタイに行きましたが、何度行っても楽しい街です。まだ、訪れていませんが、北にあるチェンマイは街も気候も穏やかで、老後にロングステイをするにはとてもよいそうです。

先ほどバンコクは華やかな街と書きましたが、影の部分もあります。ラオスに行く前に、約13万人が暮らすと言われるバンコク最大のスラム街クロントーイスラムを視察しました。狭い土地、粗末な家に多くの貧しい人が暮らしています。電気、水道は整備されていますが、ゴミや下水が溢れ衛生状態は悪いです。日々の生活に追われて、学校に行けない子供たちもいます。そこでは、日本のNPOが造った図書館で本を読み、遊ん

でいる子供たちの笑顔を見たのが唯一の救いでした。

カンボジアには、当時小学4年生の息子と二人旅で訪れました。アンコールワットは人生のなかで一度は訪れたいと思っていた場所・遺跡です。雄大にそびえるアンコールワットは最高でした。特に、アンコールワットの後ろから朝日が昇る姿を見たときは非常に感動しました。アンコールワットはもともとヒンドゥー教の建物として建てられ、途中から仏教施設になったそうです。壁には、ヒンドゥー教の神話がレリーフとして彫られ、芸術品として見事でした。当時のカンボジア人の技術力の高さ、感性に感服します。

カンボジア人も仏教徒で、温厚な性格で、楽しい旅ができました。これまで、9か国に旅行しましたが、そこで思うことは、①もつと英語が喋れば、現地の人とコミュニケーションを取れて楽しい旅ができる。②もつと若いときに



海外へ行けば、自分の価値観が広がる。の2つです。

まだまだ行きたい国はあります。ポロブドゥール遺跡やバリで有名なインドネシア、タージマハルで有名なインドなど。自分自身の人生を楽しむためと海外旅行に行きたいと考えています。

ワインの魅力について

海老名 絃明
(平17年修・関西支部)

今回、洛友会会報への寄稿にあたって、何について書こうか、仕事について書こうかと悩みました。私がいま皆さんに一番お伝えしたいことと考えまして、最近凝っているワインとの出会いについて書かせていただくことにいたしました。

皆様はワインについてどのような印象をお持ちでしょうか。苦い、形式ばって堅苦しい、アルコール度数が高い・・・など色々な印象があると思いますが、総じて飲みにくいもの、普段飲みには適さないものと考えている方が多いと思います。私も以前は全く同じ印象で、なんとなく悪酔いするという、どちらかというとマイナスの感想をもっていました。

そんな私がワインを飲むようになった最初のきっかけは、昨年の

秋に新婚旅行でイタリアへ行ったことでした。それまでは正直、居酒屋のワイン、結婚式のシャンパン程度しか飲んだことがなく、イタリアでも正直言えば好きこのんで飲むとは思っていませんでした。ですが、必然的にワインを飲む中で、「ワインなんて」という抵抗がなくなりました。当時は赤、白と値段の区別しかできなかったのですが、一番安いハウスワインを

いろいろなお店で飲むうちに、例えば同じ白ワインでも、酸っぱいものや甘いものがあつたり、ベネチアではほんのり赤みがかったものが出てきたりと、色々違いが見えてきました。

次の転機は、試飲会でした。妻に誘われ、イタリアから帰国した後にワインの試飲会に行くことになったのです。とはいえ、最初は酔っ払うばかりでワインならではの良さに気づかなかつたのですが、何度か試飲会に行くうちに、生産者やメーカーの方から説明を受け、どんどん惹かれていきました。原料となる葡萄の品種や天候・土地などの育った環境、つくり方、あるいは保管状態など、様々な要因によって味わいが変わるということを教えてもらったのが、興味を持った理由です。一般的に、飲み物や食べ物には、「品種」と「つくり方」によって味や香りなどが

ある程度決まり、残るは良い出来か悪い出来かというので品質の違いが生じます。同じ種類の小麦粉と卵とバターで作ったクッキーは、おいしいものもおいしくないものも、クッキーの味と香りがすることに違いはないのです。しかし、ワインはそうではありません。特に興味を持った点について、紹介していきたいと思えます。

まずは、香りです。私はかつて、ワインの香りと言えばそのまま葡萄のような匂いであると思っていたため、ゆっくり楽しむことをしなかつたのですが、注意深く香りをとると、「花の香り」「バナナの香り」など、実はそれぞれ違う要素があることがわかります。

つぎに、色です。赤ワインと白ワインの違いについては言わずもがなですが、その中でも非常に多くの色の違いがあります。注意深く観察すると、同じ白ワインであつても、色の薄いものや濃いもの、青みがかつていたり赤みがかつていたり、多種多様です。

それから、味わいです。苦味や酸味、甘みといった味の出方がそれぞれに異なります。そのバランスによって、個性がたつていたり、バランスが取れたものになったり、いろいろな感じ方ができるのです。

これらの違いは、先述したとお

り原料となる葡萄の品種や天候・土地などの育った環境、つくり方、あるいは保管状態など、多くの要因によるものですが、特に特徴的なのは「テロワール」と「熟成」です。

「テロワール」という言葉はいろいろな解釈をされるようですが、ここではワインの元となる葡萄が作られた「土地」のことを指します。この「土地」によってワインの味が全然違うものとなることを知り非常に驚きました。わかりやすいもので言うと、フランスのブルゴーニュ地方では「ピノ・ノワール」という単一品種で赤ワインを作っていますが、その全く同じ品種でも畑が隣というだけで全く異なる香り、味になります。

作る人の職人技によって変わるといっただけでなくほとんど同じ条件の畑でも、土地のちよつとした違いによって違う特徴をもつワインになる、ということにワインの奥深さを感じました。

「熟成」については、もちろんワイン以外の酒も熟成年数で味わいが変わるものですが、ワインでは「味が変わる」というより「全く別の飲み物に変わる」といったほうが的確なくらい、印象が変わります。赤ワインで言うと、熟成が進むにつれ色は薄いレンガ色に、味は苦味が薄まる代わりに甘みが出て、香りに至っては熟成前

に最初に香った印象はほぼなくなります。熟成は、していないと、酸味や苦味などの個性が強すぎる一方、しすぎると全体的にボヤッとした印象になるなど、さじ加減が難しいもので、私は自分で判断できないので、丁度いい時期に「飲み頃」として売られているものを購入します。

たくさんワインを飲んでいくうちに、これまで述べてきたような、それぞれのワインの繊細な違いを飲み分けることができるようになってきました。「同じ種類の葡萄で作られた、産地の異なるワイン」「同じ種類・産地の葡萄を使い、違う醸造家で作ったワイン」「同じワインで、できた年が異なるもの」など、飲み比べてみると、ワインの世界の奥深さに驚くばかりです。

また、ワインはただ飲むだけでは終わりません。皆さんも、ワインと料理の「マリナーージュ」という言葉を、1度くらいは聞いたことがあるのではないのでしょうか。「牛肉には赤ワイン、白身魚には白ワイン」と一般によく言いますが、もっと細かく信じられないくらい合う組み合わせが存在します。たとえば、先日行ったお店で体験したのですが、海の香りのするウニには、海岸際の土地で作られたワインをあわせると、びっく

りするほどおいしいのです。

このような奥深さの一方で、実はワインは価格も幅広く、家庭で作る和食に合うものも多くあります。私は最近ではワインのおかげで毎日の食事や食後のひとときをゆったり楽しめるようになりまして、高価なものには手が出ませんが、自分で見つけた美味しいワイン、興味のあるワインを毎日のように飲むと、とても楽しいです。

以上、不勉強ながら、私が衝撃を受けたワインの魅力について書かせていただきました。この寄稿を読んでも、少しでもワインに興味を持ち、ワインの魅力を感じてみたいという方が増えれば幸いです。

雑感、明日は？

森田 隆士

(昭48年卒)



大先輩方が読まれる会報であり、寄稿には二の足を踏みました。この40年間、変わらず抱いていた思い(雑感ですが・)を書こうと思つたら少し気が楽になりました。

た。つたない処は御容赦下さい。

私の京大卒業後の会社生活は1973年に始まった、実に40年前で、メーカーの情報・通信事業分野に就職しました。初めての仕事が、アフリカの或る国向けの「輸出用電話交換機」の設計、しかも技術革新の時でしたから、委細は省きますが交換機の世代で云えば、クロスバー交換機、電子交換機の入り混じった時代で、欧米ベ

ンダーと競争しながら、先々の保守も考えて設計していたの思い出します。技術者の端くれとしての話になりますが、当時の先輩から教わったのは、「電話交換機の発展は、技術革新が梃子だが、アーキテクチャ上は連続的な発展ではなく、常にお手本となる『仮想化された理想交換機システム』に立ち返って、そのコンセプトに技術革新を適用していく、又は適用できる技術革新を推進する。」という言葉でした。そして、その「仮想化された理想交換機システム」とは、何と「手動交換機での世界初の女性オペレータ」と聞かされ、ホンマかいな・・・と思つたりしましたが、初心者には分かり易い「例え」と軽く納得した記憶もあります。確かに人間オペレータならこうすると云う機能・性能を、機械式(ハードウェア)中心の実現手段だとクロスバー交換機にな

り、汎用的な機械をストアードプログラム(要はソフトウエア)による制御で実現するとスイッチ構成もがらりと変わった電子交換機になるのかしら、と勝手に納得しておりました。ただ、ユーザインタフェースは、描いていた理想システムに比べて、未だしの心境ですが・。

その後、小生は、当初の皆様理想とは異なり、担当してきた事業内容は変われど、この世界で日々の糧を頂いて、40年と言う時間を見渡してきました。勿論、対象技術も交換機、通信、半導体チップ、インターネット、ワイヤレス、更には何と遺伝子等と多岐に渡りましたが、大きく顧みますと、技術革新の度に事業が変曲点に差し掛かっていく訳で、その度に、その方向について、『仮想化された理想の〇〇システム』なるイメージを思いを馳せつつ、そのイメージを具現化していく事に取り組んできたのかなあと感じます。この、常に「仮想化」を忘れずに空想しながら、一方では現実解を検討していく手法は、40年間変わらなかつたなあと感じています。

ここで、話は少し変わりますが、「ICT (Information and Communication Technology)」の世界では、16年周期(人)によって15年周期又は17年周期と呼ばれるようです)で、人のラ

イフスタイルが変わる変化が起こる。」と言う伝説(?)が有るとも先輩から聞かされ、教えられもしました。1965年過ぎ頃からメインフレーム時代が動き出し、この時代はコンピュータがホスト(御主人様?)と呼ばれておりました、そして1980年前後からパソコン(PC)時代が幕開け、1990年辺りから全盛期を向かえ、その後1995年〜1998

年頃には、インターネット(ネット)時代の幕開けとなりました。そして、それから15年間〜17年間を経ようとしています。この変化、流転の中、今更に2015年〜2035年辺りに、世界中の人々のライフスタイルを変えている時代の様相を空想するのも、楽しい気がします。もう今、目の前で起こっている、起こり始めているのかもしれないませんが、過去を小生なりに考えてみますと。コンピュータが興の院に鎮座ましまして「人間」が名実共にコンピュータを使うのだ、直接ご利益を享受するのだとPC時代となり。次に「人間」のネットワークを有機的に、且つ世界的に、PCも含めて結合させて行くのだとネット時代に突入し、更にはスマートフォン、今の電子制御自動車に代表されるように、直接コンピュータと認識

するしないに関わらずあらゆる機器がコンピュータを使って人間の為に処理している事を考えると、次のライフスタイルを変える時代へのキーワードも、やはり、「人間」となる気がします。しかも近年になれば成るほど、「人間」と言うキーワードを、「個人」と言うキーワードに置き換えた方が相応しいとさえ思えます。

そこで、人間・個人のライフスタイルを変える次の一手は?を思い始めると、どうしても人間・個人とは?のお話になりそうです。そのヒントを得ようと、小生のつたない経験を振り返ってみます、お付き合い下さい。最初に述べましたように小生の仕事(輸出用電話交換機的设计)の最初の海外出張はアフリカでした。その後、南・北アメリカ、中近東、オーストラリア、西欧、そして中国、ASEAN、インドにも出張しております。仕事目的で出張した国数は25ヶ国余り、大都市数は(中小は除き、シリコンバレー地区等は一つと括つても)約70以上になります。百聞は一見にしかず、と申しますが、つくづく感じましたのは、余りにも当たり前ですが、本当に多種多様な人間、個人の思いと生き様があり、そんな中でも色んな多種多様な個人的な幸福が有る、と云う事です。一つの物差しで測ると誤

解するのではないか?の思いです。60億以上の物差しが要るといふのは、正にその通りと実感しています。我々がグローバルスタンダードと言うマクロな大きな尺度で測って辛い或いは幸福であると感じても、かの地の個人の皆様は別の感じ方をしているんだろうなとの思いでした。その良し悪しは別として、そのような奥深い多様性は厳然として存在していると感じていた次第です。

そう思うと、次の時代を画する幾つかのテーマ候補が浮かんできます。このテーマ候補はそれぞれ企業秘密でしょうが、例えば、一つの方向として、「個人」と社会との繋がり、外部要素面では、先程のグローバルスタンダードと「個人」との関連に着目すると、少なくともグローバルスタンダード尺度で測った幸福について、全てのあらゆる「個人」が自らの個人的幸福との関係を考える事が、平等に出来るようになるにはどうすれば良いか?どのような「」なら可能か?と言う問いも出てきそうなのが気がします。勿論、この委細な方策数は、全「個人」毎(60数億個以上!)となるでしょう。別の外部要素面では、今までの進歩の影に隠れていたテーマ、例えば、「個人」としてのセキュリティと社会との関連を中心に展開されるのか

もしも。端的な例を挙げる。と、企業が扱うデータの中では個人情報扱いがプライバシー問題に絡んで大変難しくなっています。一方で、FacebookやTwitterは、個人があらゆる情報を個人的に流し始めています。最近問題となっているのは、FacebookやTwitterで流れている情報を米政府のNSAが個人の意図とは別の目的(ナショナルセキュリティ)で使おうとしていることがわかってきていますが、大変難しい問題です。セキュリティとはなんなのか、プライバシーとはなんなのか、国と文化の問題も絡んできてさらに複雑な方程式になるように思います。

更にもう一つの方向として、「個人」の内部要素面が有ります。昨今大きな進歩が有りましたが、例えば「個人」としての生命、遺伝子、寿命も含んだテーマに向かうかもしれない。脳科学研究成果を使って、手段としてのICTが、現実の人の生活を変えていくテーマかもしれない。通信分野でも、少し前より、EmotionalなCommunication実現が言われてきていました。もはや、この内部要素面を抜きにしては、ICTの重要性は語れない時代がすぐ其処に来ているかもしれません。どの方向がメインとなるか、或いは同時に幾つかのテーマが必須になるのかは別議論としまして

も、小生の出发点(通信、ネットワーク)に関して言えば、「個人」を、よりキーワードとすると、「個人の通信毎によって、通信の性格(重要性、即時性・待時性等々)と通信時間と通信量が時々刻々違う。しかも他を気にせずに通信しようとし、その発信数が時として、加速度的に爆増する。そしてセキュリティとして何を担保していくのか?」辺りとも思えます。これらの状況の風景を空想してみますと、通信・ネットワークに期待される機能と動きは今とは違った風景となる気がします。重要なトピック理論、情報理論も様変わりしているかも知れません。言うは易し、行方は難し、でしょうが、通信、ネットワーク等ICTの責務は大きくなってきているのです。そして、ともすれば、提供サイドのロジックで解決を図ろうとしたくなりますが、実の処、結局大きな変革は、人全般というより個人、個々、パーソナライズ(60億人のそれぞれの個別の幸せやニーズにマッチするようにしていくこと)を目指した技術・システム、設計思想によって成し遂げられてきたと思います。

そして、此処で空想した風景について、先ずは小生が40年間続けてきた手法である『仮想化された理想の○○システム或いは○○

サービス』に思いを馳せつつ、グローバルなさまざまな物差しを用いながら具現化すべき現在の環境における『世界初の女性オペレータ』は、いったい何をしてくれるのかも含めて想像(Imageして絵を描く)してみる事は意味が有る事ではないでしょうか? 次に、その絵に向かって、実現を図って行けば、例えば方向が少し外れていても、明日の「個人」の幸福に役に立てるのではないかと、誠に僭越ながら感じています。

其の時、小生の明日も又ワクワクするものになっていると期待しつつ、その風景の中で大先輩の皆様方とお目にかかりまして、今までと変わらぬ御指導も賜りたいと願っております。

ばらの街とアーモンドの街

河西 秀典

(昭58年卒)



ばらのまち(広島県福山市)への単身赴任を始めて1年半が過ぎ

ました。この原稿を書いている5月には恒例のバラ祭りが開催され、今年もその名を冠したバラ公園をはじめ、通り沿いの多くのばらの花が目を楽しませてくれます。現在では『ばらのまち』と検索にかけるとすぐに福山市がヒットするほどになっていますが、そのきっかけは戦後、地域住民が『荒廃した街に潤いを与え、人々の心に和らぎを取り戻そう』との思いで約1000本の苗を植えたことが行政を動かしたとのことです。その思いはその後半世紀以上の間、受け継がれています。

入社以来何回か転勤しています。入社以来何回か転勤して、何故か全て勤務先まで車通勤という生活をずっと続けています。そのため時間を見つけては家の周辺や出かけた先の周辺を歩くというの心がけているのですが、この時期は気候も良く気持ちよく歩けます。転勤すると新しい環境での生活が始まるわけですが、その周囲を探索することによる様々な発見と新しい人間関係による刺激を受けることができます。

2003年10月から2008年5月までは英国オックスフォードで勤務しました。イギリスは思い出深いところで、今の時期はオックスフォード郊外に広大な菜の花畑が広がります。菜種油を取るための畑だそうです。起伏のある

丘を埋め尽くす黄色い絨毯は見事な景色で今も目に焼きついてます。考えてみるとその土地、土地の印象が花々の印象と強く結びついていることが多いように思います。

イギリスに赴任したのは10月ですが、この時期は昼の時間がどんどん短くなっていきます。先に赴任した方々からは赴任をスタートさせる時期としては最悪だと言われながらの赴任でした。ということとで家族は次の春から呼び寄せることにしたのですが、確かに真っ暗な中を出動し午後3時過ぎには真っ暗になる冬はやはり新生活を始めるにはあまり良い時期とは言えません。その分春が来るのが待ち遠しいのですが、まだ寒いうちから桜の花らしきものが咲きはじめます。日本では桜の咲いている時期はほんの一時でその儂さが故の美しさという印象ですが、イギリスでは咲き始めてからかなりの間咲いているので季節を感じないなあと思っていました。ところが調べてみるとどうもこれは少し違って、最初に咲くのはアーモンドの花だそうです。遅れて桜の花が咲くために長い間桜が咲いているような印象を受けるようです。素人目には区別が付かないほど良く似ていますので、日本の季節感とは全く違った印象を受けることになりました。

また、イギリスは歴史のある国ですから街を歩いていると色々な発見があります。ロンドンで待ち時間ができたときに散歩して見つけたのが『ロンドンウォール』です。街の中に突然古い壁が顔を出していました。よく見ると白いタイルのパネルが設置してあり、番号がついていることから幾つかのポイントの一つであることがわかります。興味をもってその番号をたどって歩いてみたのですが、20数箇所の城壁が街の中にひょっこりと顔を出しており、それを散策する『ロンドンウォールウォーク』というコースが設けられています。調べてみると紀元200年ごろにイギリス北部の民族から街を守るために当時イギリスを支配していたローマ人によって築かれた防壁がその基礎となっているようです。同じ目的でスコットランドとの境界あたりに作られた『ハドリアヌスの城壁』は有名ですが、ほぼ同時期に作られたものようです。途中にあるロンドン博物館の説明によると17世紀のロンドン大火はロンドンウォール内を焼き尽くしましたが、この壁のお陰でその外側は焼けなかったと書いてあったと記憶しています。

その後、ロンドンの拡大の障害になつてきたために取り壊されてきましたが、今でも部分的に残されているところが散策コースになっています。今の金融街シティを取り囲むようにロンドン塔からブラックフライアーズまで続いています。言われてみるとその途中にはビショップスゲートなど『ゲート』が付いた地名が幾つもあり、城壁があった名残が見られます。街を取り囲む城壁はイギリス各地に残っていますが、一部だけが残っているために逆に興味を引く遺跡と言えます。

自分で探しにいった場所のひとつにテンプル教会があります。ご存知の方もおられるかと思いますが、ダン・ブラウンの『ダ・ヴィンチ・コード』で出てきた場所で、映画に出てきたテンプル騎士団の墓も見ることができます。ちょっと行き方が難しいのですが、機会があれば是非。

さて、最後に仕事の事にも少し触れておきたいと思えます。就職して企業の研究所に配属されてから長らく研究開発とそのマネジメントを担当してきましたが、事業部門の開発を担当して2年になります。研究所では化合物半導体を使ったレーザ、LEDなどの光デバイスとその応用に関する研究開発を長らく続けました。うち3年間は12社が集まって将来技術を開発する共同研究会社に出向となりつくばに居ました。オックスフォードにある研究所では所内の

研究全般をマネジメントすることになりました。今は電子デバイス全般の開発が守備範囲となつています。自分で研究しているときはその研究に没頭していて異動の話があつても移りたくないのですが、一旦移ると新しい世界が広がります。単身赴任は想定外でしたが、それなりに過ごし方も身についてきたように思います。厳しい時代ですが今年も洛友会の会員がメンバに加わってくれました。多様な人たちとお互いに刺激しあいたいと思います。変革が求められる時代にその礎となる技術開発の現場に身を置けるというのは幸せなことだと思つていますので、大学にはたくましく新しい時代を切り開いていける力強い人材の育成を期待しています。

変わりゆくキャンパス・ 変わらない学舎

森 信介／京都大学学術
情報メディアセンター
(平10年博士卒)

博士過程修了から9年の後に准教授として赴任してきたときには、電気系学科の建物の周りにはさして変わっていませんでした。しかし、私が学生時代を過ごした研

究室の居室は演習室となるなど、中は変わっていました。赴任後6年の間にも、少しずつ変わっていつていきます。昨年度から、電気系学科の講義の中心地である「電総大」も耐震改修となりました。最近、一眼レフを買ったこともあつて、キャンパスや学舎の雰囲気写真を写真でお伝えしたいと思つています。なお、建物などの名称は、私が学生時代を過ごした1990年代と現在が混在しているでしょう。読者諸氏に正しく伝わるか甚だ心許ないですが、写真から記憶の断片を辿っていただけると幸いです。



正門の東から望む時計台

まずは、吉田キャンパスの本部構内の時計台を正門東から見てみましょう。時計台は相変わらずですが、手前に大きく写っているのが自動車の出構のためのゲートです。今年度から本部構内の駐車が有料化され、このようなゲートが正門の東側に設置されました。こ

のすぐ左側に、入構のゲートがあり、ここで自動発行のカードを受け取ります。きちつと管理されるかもしれない。1時間までは無料なのはいいですが、休日も1時間を超えると有料になるので、休日に研究室にいかなくなりまして。こんなことに影響されてはいけませんね。正門左には、少々お洒落なカフェテリアもできて、日も営業しているようですので、機会があればご訪問頂けるといいと思います。



旧教養キャンパス

東一条通りを挟んで南側の旧教養キャンパスの変わり様が著しい。中は「どこの私大かと思う」と言われるほどに、整然としています。旧教養キャンパスだと分かるように、入り口の古ぼけた門もいれて写してみました。写つてはいませんが、奥に行くほどに「以前の京大」になっていきます。



中央食堂入り口

工学部8号館の耐震改修にともなつて、中央食堂もリニューアルされました。これまた「どこの私大かと思う」ほどにきれいです。入り口では、液晶モニターがメニューを表示して迎えてくれます。洛友会の皆様の研究開発活動の結果ではないかと思わずにはいられません。いろいろ様変わりしますが、カレーやうどんの味は、学生のとときとさほど変わっていませんでした。



中央食堂

座席座席で目を引くのは通称「ぼっち席」です。個食の時代がここにも到来しています。写真の左側の席ですが、座れば眼前には

パーティションが聳えます。学生時代は、2コマをサボって11:40くらいに一人で昼食を食べることはありましたが、こういうニーズを感じませんでした。しかし、夕食時は、これが結構埋まつているのです。私の提案としては、この際だから、タブレットのスタンドと電源も備えてみてはどうでしょう。他の大学の友人と遠隔で食事とかができそうです。



「電総大」外観

さて、次は電気系学舎の今です。「電総大」も耐震改修になりました。外観に大きな変化はありません。



「電総大」内部

内部は、改修直後だけにきれいになってます。左右の壁の手前に鉄筋の筋交いがあるのがわかります。学生のときは、こんなごつついのはなかったと記憶しています。しかし、黒板を含め、雰囲気は同じといえば同じです。



電気系学舎東側中庭

最後に、研究室や事務がある建物です。東側の中庭から北西方向を望むと、左に南北の建物、右に東西の北館があります。私は、この北館のN103というところで博士修了までを過ごしました。指導教官の長尾先生の居室は、この写真の右の建物の右端の2階でした。ここがどうなっているかというのは次の写真です。



電気系北館廊下

なんと、シヨクなことに長尾先生の居室は廊下になってしまっていました。以前は、建物中央に廊下があり南北に研究室などがあつたのですが、今は、南側に廊下、北側になんらかの演習室があります。結果として、長尾先生の椅子と机があつたところが廊下になっていきます。私は普段は別の建物におりますが、ここをたまに歩くことになり、廊下の床のその場所を見る度に、長尾先生のご指導を仰ぎながら、純粋な興味から時間を忘れて研究に没頭した学生時代を思い出し、気持ちを新たにしています。

同窓会だより

昭和40年卒業生同窓会

昭和40年学部卒業生、42年修士修了生のうち、連絡先が確認できている者は112名、この3月には全員が70歳の台に乗った。前回、平成22年11月の卒業45周年同窓会において、「われわれも古希を迎えるのだから、5年ごとの同窓会だけでなく、その中間年にも同窓会を開催してほしい。」との声が上ががり、多数の賛同者があつた。そこで、今回関西在住者が中心になって初めての中間同窓会を5月12日〜13日、琵琶湖畔の大津

プリンスホテルで開催した。出席者はサンディエゴから駆けつけた者を含めて48名であつた。

12日午後5時から、松本絃君と森本浩志君の講演で開会。京都大学総長の松本絃君は、英語での教養教育の実施、大学院にグローバルリーダー養成の特別コースを開設、人物を総合評価する入試の導入など、京都大学改革に取り組み固い決意を披瀝した。日本原子力発電株式会社前社長の森本浩志君は、一昨年3月11日の東日本大震災時の緊迫した様子も含めて、電力事業に従事してきた自らの来し方を語った。

6時から、京都大学学歌斉唱の後、江島義道君(京都大学監事)の乾杯発声で懇親会をスタートし、二気に盛り上がった。アルコール飲み放題にしていたが、酒量が一向上がらなかったのは、やはり古希を迎えたせいだ。懇親会の半ばで3氏がスピーチ。石黒公君は、楽友会と称して年3〜4回ゴルフコンペをやるなど、東京サイ

ドで同窓生が活発に交流している話、大森亨君は、油絵、野菜づくり、科学史原書講読などの三道楽を楽しんでいる話、平田康夫君は、工学部各学科の同窓会の連合組織のお世話をしている話をした。工学部全体の同窓会の連合組織があるとは初めて知った。終わりに近づ



平成25年5月12日 京都大学洛友会 昭和40年 修士昭和42年卒 同窓会

き、次回50周年同窓会の幹事代表中堀一郎君が挨拶、早くも京都市内のホテルに仮予約を入れるという手際の良さに一同感嘆。最後に三高道遥歌と琵琶湖周航の歌を歌って散会。つづいてホテルの37階に移って夜景を見ながらの二次会、まだまだ話は続いていたが、10時半で終了した。

翌日は、観光組とゴルフ組にわかれて行動。ゴルフ組は11名がホテルから30分ばかりの瀬田ゴルフコースへ。快晴、新緑のゴルフ日和のもとでプレーを楽しんだ。優勝は、若いころには300ヤード近く飛ばしたという石黒公君。ただし賞品は予算の都合で順位に係なく、京大エンプレムのクスノキマーク入りのタオルであつた。

平成27年11月には卒業50周年同

窓会を開催する予定で、全員が再び元気で集まれることを祈っている。(井上嘉明)

支部だより

洛友会会報

関西支部総会報告

平成25年5月12日(日)、京都の新・都ホテルにおいて、関西支部総会が52名の参加を得て開催されました。

総会に先立ち、「ネットワークの「今」」複雑ネットワークとは」と題して講演会を開催しました。講演会では、京都大学名誉教授の奥村浩士先生(昭和41年卒)より、交通ネットワークやソーシャルネットワークなど多種多様に存在する現代のネットワークについて、それは一体どのようなものか、今どのような研究がおこなわれているのかなどをお話いただきました。ネットワーク生成の過程を社交ダンスでのペア分けのビデオを用いて分りやすく説明いただきなど、参加者にとって大変興味深い講演会となりました。

支部総会は、則竹総務幹事の司会のもと丹羽支部長のご挨拶で始まり、各幹事から平成24年度事業報告ならびに決算報告があ



総会終了後は引き続き懇親会が開催されました。洛友会会長の長尾先生のご挨拶の後、木村先生に乾杯のご発声をいただきました。懇親会中は終始和やかな歓談の場となり、楽しい一時を過ごすことができました。終わりに、西台様に先導いただいて「洛友会の歌」を全員で斉唱し、最後に西川先生より締めのご挨拶をいただいて散会となりました。

光野英織（平19年卒）記

四国支部総会報告

り、また平成25年度事業計画および予算編成ならびに平成25年度関西支部役員改選について審議され、満場一致で承認されました。平成25年度の新役員は、

支部長 西亨

（昭和49年卒）

副支部長 細野 文雄

（昭和49年卒）

総務幹事 石原 一志

（昭和59年卒）

会計幹事 松浦康雄

（平成2年卒）

の各氏です。

支部総会に引き続き、洛友会幹事長の荒木先生、事務局長の高橋先生、学科長の小野寺先生より洛友会での会員専用WEBサービスの導入や電気系教室の現況などを説明いただきました。

お話がありました。

次に、荒木幹事長から、先輩と学生との交流会や新名簿システムなど、洛友会の運営状況についてお話しいただきました。

高橋教授からは、吉田キャンパスや桂キャンパスの様子について、写真を交えながらご紹介がありました。また、電気系教室の近況、昨年度の就職状況、連携教育プログラムについて詳しいご説明があり、支部会員は自らの学生時代を思い起こしながら興味深く聞き入っております。

続いて、四国支部幹事から平成24年度事業報告、会計報告、平成25年度予算案および支部役員の一部改選について説明があり、満場一致で承認されました。

総会終了後、富田先輩（昭和23



第58回洛友会四国支部総会
平成25年5月24日 於 JRホテルクレメント高松

年卒）の乾杯音頭で懇親会が始まりました。先生方や久し振りの友人と酒を酌み交わしながら歓談しているうちに、あつという間に予定の時間となり、最後に恒例となつている「逍遙歌」と「琵琶湖周航の歌」の大合唱で会を締めくくりました。

その後、有志一同は同ホテル21階のバーにて、高松の夜景を眺めながら深夜まで親交を深めました。

山地教文（平成11年卒）記

洛友会東北支部総会報告

平成25年6月1日（土）、仙台市内の「ホテルJALシティ仙台」で平成25年度東北支部総会が開催されました。本部より荒木光彦先生の御出席をいただき、東北支部からは6名が出席しました。

総会には井上支部長のご挨拶で始まり、議事では24年度決算報告、25年度予算案について幹事より説明があり、参加者全員の一致で承認されました。続いて荒木先生より本部事務局からの報告として、25年度の主な事業計画（予定）、今年の新入生歓迎会の様子、また、本年度より導入された会員専用Webサービスや新名簿システムの概要などについてお話しいただきました。

総会後には懇親会を行いました。東北支部の活動は毎年の総会



のみですが、ほぼ出席メンバーが固定されており一年振りの各自の近況、学生時代の研究テーマやお世話になった先生の思い出の話、また、東日本大震災後のエネルギー事情や原子力発電所内の活断層問題など、自由な雰囲気議論に花が咲き、あつという間に予定の時間となりました。来年の総会での再会を約して散会となりました。来年は、新しい方の参加をお待ちしています。

秋山康人（昭57年卒）記

北陸支部総会

平成二十五年六月一日（土）富山市の「五万石本店」において、平成二十五年北陸支部総会を開催しました。本部から木村磐根先生、教室から下田宏先生をお迎えし、合計二十名の出席がありました。

支部総会前には、例年同様、講演会を開催しました。今回は下田先生に「オフィス環境制御と知的生産性」と題し、オフィスでの知的生産性の定量化、および環境による知的生産性の変動について、講演していただきました。人の生体リズムを考えると、午前中に高照度環境にいることが大切であり、オフィス照明を適切に制御することで、知的生産性が向上すること、知って研究されていくとのこと、たいへん実用的な公演内容でした。



引き続き、木村先生より、本部の近況等として、洛友会の事務改革や新名簿システムなどについてご説明いただきました。次に、下田先生より電気系教室の近況として、吉田キャンパスの様子、教員の方々の異動状況、卒業生の進路のほか、博士前後期連携プログラムの成果などについてご説明いただきました。最後に、支部幹事から支部近況報告、会計報告、支部役員改選に関する議案を説明し、満場一致で承認されました。

支部総会では、冒頭、松木支部長より、洛友会六十周年記念号に北陸支部からご執筆いただいた内容についてご紹介されるとともに、今後とも北陸支部総会を盛り上げていきたいと挨拶がなされました。

総会終了後、懇親会を開催しました。懇親会は、松木支部長のご挨拶、西村顧問の音頭による乾杯で幕を開け、先生方や先輩・後輩と酒を酌み交わして歓談し、楽しいひと時を過ごしました。最後に琵琶湖周航の歌を合唱し、中島顧問のご発声のもと、万歳で散会となりました。

(長谷川慎治 記)

顧問 森本芳夫 (昭16)
西村尚和 (昭23)
中島恭一 (昭40)
松木純也 (昭44)
宮越政通 (昭41)
久和進 (昭47)
金森閑治 (昭40)
柴田明 (昭40院)
西念勉 (昭46)

幹事 安達正利 (昭46院)
野村保之 (昭52)
長谷川俊行 (昭54)
中田和男 (昭63)
長谷川慎治 (平6)

第99回関西支部ゴルフ競技会報告

△プレー状況▽
第99回関西支部ゴルフ競技会が平成25年5月18日(土)武庫ノ台ゴルフコースにて開催されました。当日は天候に恵まれ、アウトは伊藤氏(昭和34年卒)、インは細田氏(昭和36年卒)の始球式でプレーを開始し、合計18名(うちシニア8名)が競技に汗を流されました。結果は以下のとおりです。

(シニアの部)
優勝 北野 徹 (S44年卒)



2位 大澤 靖治 (S44年卒)
3位 細田 純一郎 (S36年卒)
(一般の部)
優勝 福田 隆 (S57年卒)
2位 島岡 正憲 (S52年卒)
3位 小林 千彰 (S49年卒)

△懇親会▽
プレー終了後、福田氏(S57年卒)の司会により、表彰式兼懇親会が開催されました。表彰式では、入賞者に景品および優勝カップが手渡されたあと、入賞報告を頂くとともに、関西洛友会ならびにゴルフ競技会の更なる発展を期待するコメントを頂きました。

△お知らせ▽
洛友会関西支部では同窓生の懇親を深める機会として毎年2回(春・秋)にゴルフ競技会を開催しております。今回は平成25年10月12日(土)を予定しております。第100回記念大会ですので、多数の皆様のご参加を期待しております。お誘い合わせの上、奮ってご参加ください。

△連絡先▽
福田 隆 (S57年卒)
大和田 淳 (H18年卒)
連絡先 050-71104-1
0871 (大和田)
owada.atsumi@b2kepc.co.jp

編集後記

WEB名簿サービスの開始直後には、うまくつながらない会員からお問い合わせを頂きましたが、数日で収まりました。ホームページや会員サービスのログインページを微修正しました。事務局や支部幹事とともに会員の皆様にもご活用いただければ幸いです。

訃報

昭16	松見修一郎	25	5	5
昭18	高木 敬三	25	5	27
昭23	須藤慶一郎	24	7	
昭23	松田 功	25	3	2
昭24	中村 哲夫	24	11	19
昭25	久民 実	24	12	7
昭25	澤田新一郎	25	5	5
昭25	西田 榮一	25	2	6
昭27	高田 朔郎	24	12	6
昭28	近藤 耕三	25	5	9
昭28	竹村 博	25	5	13
昭29	波多野 龍	25	4	7
昭30	金森 仁志	25	5	4
昭31	津田 剛志	25	2	1
昭33	伴 一	24	5	30
昭37	内田 頼利	25	5	1
昭39	軸丸 真行	25	1	28
昭45	服部 好彦	25	5	1
昭51	高橋 則雄	25	2	26
昭53	三谷 清	24	12	

以上の方々がご逝去なさいました。謹んで哀悼の意を表します。